



五美と四

て保六未年

靈匠園無極也

苗代水卷第一

發句

春女

朱
亂基さういともこの小むれ雲吹うれ

秀政

志賀乃山あえよ女のおやく居て酒れも先きおと突
て後成らちびさ。面と桂馬あふ投くうれはるべ
人と。飛車のたふふあせ。玉多成あて花をわり。揚成
賭ふと。金銀うり泥まねう。あつと乃人とはんて祿
そめ名あつとまほ。○象基ハ。太平御覽云象棋周武
王所作而行基有日月星辰之目與今人所爲不同唐
牛僧孺撰幽怪錄載唐寶應元年岑順天陝州呂氏南
宅夜聞鐘鼓之聲明掘之即古塚也前有金象局列馬

紫

蒲枅其辭ト與勢正ニ今世所爲ス之象碁也云々

花ふと女見ふとぞうれ

榮春

湯屋飛のあふぐ。法師乃らぬぐの心成はく。きりね
 くれえどり。わやよゑあけ女すぐ。清水乃花の。芳や
 いまや。湯室探乃人。とんどうに眸^{メヂ}了そ。いとらうたげよ
 とうつ。くれぬ人。我の相あ。さ成くれえ

青

遷りて婦をふりて女を那

江戸桑門

臥水

あましく都乃衝^{サタ}またちて。石仙ふちぐも。辻社乃みめじ
よかりいとくくべ。僅^僅乃あまげよま代くも。令^令後へまこ
よとくくとせふ女と。惣^惣嫁とあづ。あれと世乃とこもれた。
何乃とくびあもあくとてあそぶ人わたり。げううれ女。社^社が
あよりあそ。誰^誰の里はゆるといふ事とあそと。来り流れ

西よるづゝて町ちね翁乃柏子ボにさつづ。勇士衆乃鉄鞭カササのきふさゝと消へ。團圓よとくやあつらん

○職人足輕合云
三十番 左
たち秀

計此るへり何まうく之悉のみ糸もり乃月ひるる

右
行書

付く山もあひやうな書きたるかせさうはの意乃月とて
 判云左名ともふさるたりあり。後負あつてくゝる書
 あつてせざ。より所あるを可勝とや

青

美のひさしを業

同所

睡鷗

玉葉集恋文「落たまふふ。きうく。吉せはぬれんそ
うきかつかともゑ恋に け新よ付く。あう人。梯代きやと
女。周呂きうやあう〜んとあひ阿やまう。うゑ乃ほも
ううと柳風呂の。何さきうりといふ女房。胎^{サク}恋の肩をぬこ

出たりやうとあるは

辛春

計中あてうゑんかゝるひ様雙々

都鳥

横^{ヒヨ}子^シ染入。急なねづき里よりあつたより臨う。

せりしとて針。わらわとてけて。物成りし言なり。ふ。
 まは威していり。花より人なり。たより。ぬ。蝶やぬ。
 ○朱絳春女怨詩云。獨在紗窓刺繡遲。柴荆枝上轉黃
 鸝。欲知無限傷春意。盡在停針不語時。○雙蝶乃事。
 素とれ。昔劉子卿上云。人アリ。廬山ニ居。學道ス。嘗テ
 花房漸ク綻ヒ馨香山谷ニ亘リテ薰ズ。雙ツ蝶アリ。五絲目ヲ
 眩カス。甚タ麗シク。大サ燕ヲノ如シ。花ノ上ニ翩翻トカケリ集リテ。
 花藥ヲ嘔フ。其狀ヲ愛スヘシ。其夜ニツノ女子アリ。來テ云ク。君既ニ
 花ヲ愛メ心ヲ慰ム。此志ヲ感ノ來リテ相諧フ。蝴蝶ノ游ブニ
 準テ。君亦意アレヤト。劉子卿是ヲ聞ク。聲ノ文世ニ比ナク
 容ノ端ニキニ。心動キ倡ヒ入テ歡ヲ極ム。下畧。六朝錄けい。

乃象牙也

藝州巖鳴渡邊

單西

扇をきて花ふ多とふ舞子ふれ

淨心

荷陰梅からふさむ雲女が那

仲品

紫

竹園たけのふらん墓ふゆふなるとうれ

正次

青

花を採持婦が
徳成より糸魚柳

軒

菅家文艸云。羅綺之爲重衣。妬無情於機婦。下畧劉後村鶯梭詩。擲柳遷鶯太有情。交交時作弄機聲。洛陽三

月花如錦多少工夫織得成矣

ゆきまきやく知とやぞとてと

生年九歳

五百九

蘭花のふに銅鹽は膩乃瀝ふも。晨粧はかざるまゝその
かほのあざとをほつるへ。烟の斜りあはれとため
く。袖小袖は薫せ。餘酒は内松のまじて。まやくおせ
給ふ人のとつくる。茶のふれ女をうて。

はふもむれ好もんをさそうれ

一水

蛾眉と點して容貌とこほも。蟬翼と畫て紫色は翠ひ
俗乃あつた。瀉し。雲とくると女乃まゝとあふ
うむとく。款とく。傾城花眼忽爾爲緑苔之浮。澤垂珠
麗耳。倏然作松風之通。壑施朱紅臉。卒爲青蠅之踟躕
染丹赤唇。化爲烏鳥之嘯。完。下畧三教指歸二見

うれめやさー掃あめす掃乃露

岡本 訥子

薄紅のささ。掃あめとて。くはも。俗の樂に。く。い
た。う。さ。つ。あ。う。く。や。ゆる。さ。掃ハ。額。う。は。と。く。さ。り。
あ。う。さ。つ。ハ。給。う。り。也。さ。つ。ハ。七。八。枚。さ。り。と。後。成。恩。さ。般。の。は
お。ふ。は。う。と。さ。と。

うれま乃ささうーるう踏あふ

露芝

う。さ。ま。の。さ。け。髪。整。う。宮。女。乃。清。言。今。さ。ハ。一。條。ゆ。さ。り。で
湯。乃。さ。ゆ。か。さ。う。く。ー。○。鳥。羽。む。と。つ。て。穆。王。乃。時。み。尺
の。鳥。さ。さ。さ。と。天下。忽。ふ。膝。く。さ。う。く。と。烟。は。け。さ。さ。と。く
た。う。ふ。鳥。乃。翔。ふ。黒。色。乃。む。わ。り。け。む。ば。と。り。て。お。う。入。て
な。げ。た。せ。る。ゆ。さ。う。り。お。と。お。せ。と。周。乃。あ。り。た。と。さ。と。秦。女
改。周。記。二。見。け。あ。ふ。く。と。た。事。と。い。う。人。と。て。い。う。と。お。れ。歌

大納言の室にまゐりて。病の床よりあがり。智行の
侍のくも。おのれをさぐりて。いさなり。況や未代乃
過す。ちかき西来のつらきよきとや

紫 榮乃むと井院の水はぐゆりふ

志州鳥羽 堀堀子

さるゆふ井院のちかき堂いひて。世續ゆりまき。その
おとあひそく。くちさるや。さきさき。くちさる
さ。さきさき。くちさるや。さきさき。くちさる
かきゆりて。さきさき。くちさるや。さきさき。くちさる
さきさき。くちさるや。さきさき。くちさる

あさくさ 芦乃角むむ女乃那

同所 堀堀子

さるゆふ井院のちかき堂いひて。世續ゆりまき。その
おとあひそく。くちさるや。さきさき。くちさる
さ。さきさき。くちさるや。さきさき。くちさる
かきゆりて。さきさき。くちさるや。さきさき。くちさる
さきさき。くちさるや。さきさき。くちさる

野老あふ女乃つら 水乃見

同所 孫侍

百年の事なたるぬら。見ゆ。さきさき。くちさる
野老とさる女乃。さきさき。くちさるや。さきさき。くちさる
さ。さきさき。くちさるや。さきさき。くちさる
かきゆりて。さきさき。くちさるや。さきさき。くちさる
さきさき。くちさるや。さきさき。くちさる

紫

れりあるへー ○多識篇云革薺 平々登古呂 今案度古呂

しれ掃さくく時ふれや那 同所 賦枕子

賢本卷云。母をん十箇をそり給ふ。いやうつう
かきうらふ。けうけり。うきうき。うきうき。うきうき。
しれ。みえ。みえ。帝は。うきうき。うきうき。うきうき。
ま。うき。うき。うき。うき。うき。うき。うき。うき。
○年中。新事。新合。左。雲。掃。雲。云。
い。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。
判。云。云。云。云。云。云。云。云。云。云。云。云。云。云。云。云。云。云。
大。極。極。極。極。極。極。極。極。極。極。極。極。極。極。極。極。極。
内。何。り。て。掃。雲。一。位。の。ひ。ひ。ひ。ひ。ひ。ひ。ひ。ひ。ひ。ひ。ひ。ひ。
も。後。方。あ。う。う。梅。臺。を。凝。花。舎。の。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。
う。う。も。何。の。た。う。り。何。と。て。い。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。

紫

常掃さくくて姉嬢たうくくへり 若州小濱 一焉

二月乃うつあきり。南院居の掃さくく。い。あ。り。う。う。う。う。う。う。
き。き。き。き。き。き。き。き。き。き。き。き。き。き。き。き。き。き。
け。め。て。他。母。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。
い。け。う。う。乃。後。師。腕。は。骨。と。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。
中。二。階。ふ。う。う。の。り。う。う。の。戸。れ。八。巻。を。あ。う。う。う。う。う。う。
や。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。
ひ。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。
き。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。
詩。小。雅。云。常。掃。之。華。鄂。不。韓。韓。凡。今。之。人。莫。如。兄。弟。矣。
掛。香。ふ。ら。う。ね。梅。ね。ふ。を。う。う。う。う。 同所 去留
句。云。云。云。云。云。云。云。云。云。云。云。云。云。云。云。云。云。云。

青

紫

はくね女もむれさうりう那

金虎

都人宿夜案乃うそふあうめて。あうもろくそほむま
ねさうぞりねはの人サてとんれもあわう女幕をめ
うけてふは標とほてあうそ標乃面はこも。控室の
荷袋はあうばう。うあひのうろはつらうて。うそ業と
吐いあう血乃うやうやうたうげせもねあれ人そや。彼
すさたりあうあうそてうううい。望ま乃鏡は顔むく
ほまうそ業とあうのむうい火つらうふうそうり。あ町
作乃あうの物ば湯ふあう。終を鏡標乃勅進ようて
あうもかこうねまかともうす。かりへ町家し女乃た
つれあうそうりうゆふふはまう標うへんは少うめ

あう人乃あうり。兩人勢さうひとあう人うりゆり

棧あやまばうり

望ま又標

江戸住

螢雪

望ま又標と案とろふ。幽明録云武昌北山上有望夫石
狀若人立。世説左傳云昔有貞婦其夫從役遠赴國難
携弱子餓送此山立望夫而化為石因以為名。大明一統
記あうばうあうてかほ。あうりうりや。ほふそ芝居
好も乃あうのるふ。棧あうあうたう望ま又標也。うそ
はあう。○蹄疾集云題四糸河原。紅顔年少本妹艶
況掃蛾眉。倣女形千眼留心舞臺上。此時誰又獨惺惺

おとろそとまはりえたつ女う那

江戸住

似松

男乃陽氣よもろふされて女のかうらうそと萌うるあう
禮記孟春令云是月也天氣下降地氣上騰天地和同。草木萌動矣

金 夜花やねもけりけり松

可理

松乃けりけりけり。並木松乃けりけり。彼草の草宮に何
女の幽霊。反魂香にひいて煙は海をく。形もやとつる
ま。かゝる夜たりとゆへる。あつてあつて。○漢武帝
李夫人よりうれて。そかりい。やう。時ふ方士あり。亡
矣乃魂をうてい。えん。術とるに。な。め。て。を。初を
あ。う。む。ふ。ぶ。び。り。帳。成。り。り。酒肉をうて。魂を
ま。の。さ。う。事。と。○漢書。云上思李夫人。不已。方士少翁
言能致其神。迺夜張燈燭。設帷帳。陳酒肉。而令上居。作
帳遙望見矣。○白氏文集新樂府云。九華帳中夜。悄悄
反魂香。降夫人。魂夫人之。魂在何許。香煙引到焚香處。矣

光の地のけりけりけり花もけり

和隨

朱

基乃のれねねねんむ様

榎川

唐ノ開元年中ニ嶺南ヨリ。白鸚鵡ヲ獻ス。是ヲ宮中ニ養フ。ト
年久シ。狎愛ノ聰慧利根ヲ人ノ言學。バ。ト。イ。フ。ト。ナ。ク。能。ク。先
立テ人ノ意ヲ知ル。玄宗及ヒ楊貴妃。甚ダ寵ノ雪衣娘ト名ケ呼
詩ノ篇ヲ教ヘ。五ノ。數。遍。ニ。能。ク。誦。ス。玄宗常ニ楊貴妃ト。基ヲ圍ミ

給_レ。玄宗ノ方角色尤時ニ雪衣娘ト呼_レ玉ハ必_ス飛_テ盤ノ上ニ入_テ。歌舞_ノ以_テ其石ノ行列ヲ亂_ス矣。明皇雜錄ニ見

○碁ハ博物志云堯造圍碁以教子丹朱

○鸚鵡ハ說文云能言鳥也。一種白一種青一種五色。

矣。綠鸚鵡ハ隴蜀ニ出_ツ。滇南交廣ノ海邊ノ地ニ多_シ。紅鸚鵡ハ

紫赤色ナリ。白鸚鵡ハ西洋南番ニ出_ツ。五色ノ鸚鵡ハ海外諸

國ニ出_ツ。性甚_ニ多_ク點惠ナリ。此數種何_レモ同_シ。味丹先釣_テ尾

長ク足赤ク睛ハ金丸ノ如ク。目ノ上下ノ瞼トモニ動ク。古小兒

如ク多_ク織長ナリ。能ク人語ヲ學_ブト。異物志及續表錄說 ○大寶積經ノ

音義ニ鸚鵡ノ事ヲ注スル人古能_ク效_シ人語云云。 ○此鳥護

主報恩鳴則天下太平ナリ也格物論ニツケ

青
松樹さん女花さんやよいいね 是伯

云乃世継男。東境常む物鏡よ。まは目のみとるに

銀
かーーも。八百をぐあうりね。中系乃又もろくあねむ
あひびこもれ線うういさふく

雨園て海棠よつとすのころね 洗柳

杜子美母乃名は海棠といふ。後之より楊貴妃乃醉

さめて死_ニつれ阿海棠の福あつとよいふこと。玄宗乃

宮ひきするも。ういさをもつあうり。 ○楊貴妃傳

云。明皇嘗召太真妃。妃被酒新起。帝云。此乃海棠花睡

未定耳。 ○詩話云。杜子美母名海棠。故集中無海棠詩

○蘇東坡海棠詩。東風嫋嫋汎崇光。香霧空濛月轉

廊。只恐夜深花睡去。故燒高燭照紅粧。 ○冷濟夜話

云。淵才云。天下海棠無香。昌州海棠獨香。非佳郡乎

青
女竹興さくさくよほむいふみ 上津谷 松雲

大乗や小僧乃花散留る。龍峯の飲るれ江戸乃錦を
ひくくれくまを。信の心をありやうや。處よりれ梯を
うくくれく。竹輿と西山乃を小あむむ人。男をまづに
女乃をわたり。げ読書を。華堂乃をきり餘材をきて。弘化
法師のほろけふ八尺の像なり。げ法衣をきて。雲霞乃圓中
乃編著してまわつた乃概本なり。げ本六頁目ことふ子さ
陰羅尼とくまをく。男をなり。なふ外島上人よりうけて。
菩薩像成にたり。良書をも小安置をとま。

主月

もさうな感じさうさー氣女

祇の代乃。八坂の里乃。おれもかめも。津波乃ゆづも。さうさうさう。
 塔乃。おさうさう。茅ヶ野。湯乃。男。待乃。乃。女。神の。はと。
 泣び。さうぞ。あさうり。と。さ。下。河。系。と。南。と。さ。う。れて。清。水。
 乃。と。や。り。記。言。無。我。欲^{ナゲ}。く。小。程。さ。う。け。る。枯。木。に。さ。り。い。

紫

いのちを^{カウカウ}斧^{カウカウ}おとに女^{カウカウ}を^{カウカウ}那^{カウカウ}

たゞしむこのち移移く女うゝゑて云。あさけきね
 総角アノキやいひかりあそむるもあらん。さうづ。了
 こゝろすむさう盤ととと。さうづ。やう物地よあつ
 さう。うやほ。や ○紙鳶 事物紀原云俗謂之
 風箏古今相傳云是韓信所作高祖之征陳豨也信謀
 從中起故作紙鳶放之以量未央宮遠近矣亦羊侃教
 小兒作紙鳶藏於中間云云 ○蠡海集云春之風自下
 而上升夏之風橫行於空中即紙鳶以觀之春則能起
 夏則不能起矣

蛇ヘビいほふあや
管ケツせん
室女

江柳

攝州魚崎住
友知

興義少き。しうしう大に四ふ。猛者ありき。家よりとて築

A close-up photograph of a larva, likely a grasshopper or cricket, clinging to a vertical plant stem. The larva has a segmented body with distinct dark and light bands. Its legs are spread out, and its antennae are visible at the top.

卷之三

紫

とて。るに。ばれあて。備ふ。極樂。ばね。ひそ。た。ま。た。
聖。ま。く。う。ま。の。事。も。ほ。乃。ま。り。行。基。の。道。師。
又。講。ま。る。に。礼。賢。の。ち。り。て。い。く。ま。う。こ。九。か。あ。ち。
う。は。あ。そ。ね。ひ。う。こ。う。は。い。て。ひ。う。ち。こ。こ。
く。も。い。こ。で。な。り。ぬ。ま。の。あ。や。ま。て。同。ま。れ。も。亡。者。智。光。
く。ま。に。ほ。ま。る。と。縁。ま。う。こ。の。こ。う。ま。に。世。る。よ。
貪。ま。う。こ。あ。る。よ。ゆ。ん。と。せ。う。た。ま。う。が。方。便。ま。う。か。く。ハ。
あ。う。い。ま。ま。う。ま。り。と。な。ん。ま。ま。う。娘。ま。の。行。基。乃。化。
身。の。基。ハ。文。殊。な。り。ま。う。こ。の。智。光。な。り。智。光。の。
光。と。ま。ま。う。た。う。ま。の。ま。あ。れ。ま。り。是。ハ。う。こ。さ。た。う。ま。
う。も。あ。う。こ。人。乃。文。殊。供。養。う。う。る。身。師。う。う。仁。海。僧。
正。乃。の。ま。ま。い。う。こ。也。

乃をまうこ巢にうく燕の那

談夢

青

額綿はくくばまうこ山はう那

志州戸羽

磯侍

退。凡。下。系。乃。年。初。婆。の。こ。め。こ。の。駕。と。と。め。て。や。ま。う。
若。少。む。う。う。な。ま。う。こ。九。二。十。ま。う。に。後。代。と。ま。う。こ。尾。上。乃。
ま。め。ふ。う。け。こ。笠。重。吳。天。雪。鞋。香。楚。地。花。と。待。人。金。屑。
乃。何。と。ま。う。こ。う。こ。て。う。こ。い。ま。う。こ。う。れ。乃。人。と。ま。
追。風。も。あ。う。こ。

志州戸羽
峒嵐子

音代

異名苦板

志州戶羽
雪堂

青

同

苗代長上

○まふおるゑんちう　「ぬえりてひのうとせむいぢらり
てわちうらうらうさきのやまよと

梯上之梯を教ふ如く

志嘉戸羽藤田

秋萱

幼稚乃時を親ふまゝに。年壯に、之の志とあり。先
ていふかたは。婿乃棟樑ととりて。若くはゆくと。世
るれ甲子運史のきみ。とぞうじり。絳縣乃老人
といふも。人よきとられ。常つやうの臣生歳正
月甲子朔四首有。四十五甲子矣。とのひす。左傳より
見えてゆる。指し教するといふ。さういふゆへ。
乃校おともなりや。とて。いとあけゆる。
○子載集。城をこれより。甲子ゆえん。とて。あろ
ほ。このやま。とて。山。志原。端。

紫 丸に鏡うらひをうつを女那

莫莢堂

康吟

いまをむし。昔柳乃くくくさといふ弟男乃りく。三
 光乃當成人のそりて呼吸妙なりといふせうれそ
 うゆらびて。すさ弦乃籟ふ。紅糸のあもかまきく書給
 よ。又よき事なり。あまきくあうりあうりなり
 修く。當るせきくくくくくくくくくくくくくくく
 夕く。尾よまといふ茶麈後乃。あうりくくくくく
 惟もくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
 ころくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
 と籟のくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
 日星とくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
 結置峻卯之山獲一鸞鳥王甚愛之欲其鳴而不能致
 乃飾以金樊饗以珍羞對之逾感三年不鳴其夫人云

朱

花人なりつゝと。蕭人をいづべし。梁竇五案抄に
りて。さう人。儻ふふ乃うい物乃名也

ほふふぬ小あそ部。楊柳那

松白

智恵院乃さう。花乃うりやと。井乃ぬのわつと
あさ。あ。海。山。の。ま。を。代。を。て。輔。の。か。ら。と。た。ら。り
ま。れ。む。あ。う。く。ん。す。り。さ。あ。を。額。は。紫。藤。乃。ら。り
先。ん。と。む。さ。び。後。ま。翠。竹。乃。錦。練。を。帯。ら。う。た。を。ぬ
う。さ。り。い。て。あ。う。あ。市。の。海。を。う。や。ま。り。れ。る。廣
く。あ。う。う。人。あ。さ。い。う。さ。あ。う。ほ。世。危。う。い。ふ。楊。柳
と。村。乃。り。よ。は。徳。宗。乃。真。妃。よ。な。づ。と。白。乃。媚。り。ん
蕩。ま。う。あ。ま。り。赤。央。乃。楊。柳。乃。ふ。か。う。せ。な。柳。の。笑。う。さ
と。夫。と。う。さ。花。乃。の。風。呂。を。あ。う。い。て。二。月。中。旬。に
凡。を。村。乃。い。し。驪。山。宮。乃。松。竹。も。さ。う。柳。乃。あ。る。こ。う

と。さ。う。あ。う。い。て。あ。う。う。り。ま。じ。い。あ。や。さ。る。乃
男。乃。あ。ふ。か。う。さ。女。乃。あ。に。さ。う。と。さ。う。い。は。れ。と。あ。う
い。ま。う。と。さ。う。と。や。せん。唐。乃。め。も。明。威。寧。太。康。之。後。男
寵。大。興。甚。於。女。色。士。大。夫。莫。不。尚。之。天。下。相。倣。效。或。至
夫。婦。離。絶。多。生。怨。曠。矣。晋。志。乃。り。嗟。弥。子。瑕。が。哈。餘。の
桃。仁。地。黄。當。歸。乃。り。て。小。歌。乃。血。と。う。り。慈。童。が
菊。花。乃。枕。乃。風。と。あ。う。い。の。眩。暈。と。治。と。う。り。も
寵。乃。う。う。へ。ぬ。さ。う。さ。う。佐。使。乃。れ。も。さ。う。い。あ
さ。う。も。あ。う。と。女。乃。一。曲。う。い。て。さ。う。と。う。神。乃
と。り。つ。と。情。乃。う。あ。う。年。の。吳。竹。乃。伏。え。の。里。れ。蕭。今
行。吹。乃。う。り。と。と。て。さ。う。い。の。さ。う。や。○漢書贊云
柔。曼。之。傾。意。非。獨。女。德。蓋。亦。有。男。色。焉。矣。○古今樂
録云。石。城。有。女。子。名。莫。愁。善。歌。謳。石。城。樂。歌。中。有。忘
愁。歌。因。有。此。歌。矣。○古今集序に云。小。あ。小。町。乃。古。乃

うとまのひめの流^{なが}あり。あそれまやうとまの流^{なが}よう
どい^いとまの流^{なが}あり。あそれまやうとまの流^{なが}あり。
うとまの流^{なが}あり。あそれまやうとまの流^{なが}あり。
うとまの流^{なが}あり。あそれまやうとまの流^{なが}あり。

此
 乃
 星
 心
 如
 那

如竹

けりといふ事なりとくして。何とぞ二月乃中此意なり
 人乃常の貌いと。東山の歌よと。あるどまうもあふ
 かともあふ。ととも乃女房より。中て。ゆゑの花に。乃中
 ともとて。なれが。蘭室く。に。あづかりと。鏡より。面は。乃
 ひ。あると。なれが。蘭室く。に。あづかりと。鏡より。面は。乃
 と。あづかりと。あつと。中乃。あれい。と。うと。は。あ
 書戸を。あらし。あつと。一。雲の。あつと。あつと。あつと。あ
 けり。あつと。あつと。あつと。あつと。あつと。あつと。あ

毎わゝを幸氣なすなゝん。星ひつゝ見法をきゝで。
 長者乃ゝめふなゝん。まひつゝ見法をきゝで。
 苗云ホト斗七シ星。あゝ目ヒメ社ヤ。めきまゝに家法に
 櫛なりと手向ほいせんと。祈るぞやうと。

○星 春秋說題辭云陽精爲日分爲星故其字曰
生爲星ト ○事文類聚前集云萬物之精上爲列星ト矣 說文
星セイひつゝんつきくま長者ふるんとしうゝ嬰兒の
戲言ケゲンなりともいひてそとゆるす ○春秋運斗樞
云天樞得則景星見衡星得則麒麟生萬人壽 ○晉志
云南極見則治安而主壽矣

苗代水卷上終

